

北国からの観光革命

～日経スペシャル「ガイアの夜明け」が暗示するもの～

帝京大学法学部（観光コース担当）

教授 石井昭夫

去る2月22日に放映された12チャンネルの日経スペシャル「ガイアの夜明け」が紹介した北海道のニセコを世界有数のスキー・リゾートにするというオーストラリア人企業家たちの活動は、近來にないグッドニュースで、日本のインバウンド国際観光の前途に大きな夢を与えてくれるものである。

ニセコをオーストラリアに結び付けてくれたのは、13前にニセコが気に入って住み着いたロス・フィンドレーさんである。日本人に北海道の楽しみ方を教えるという「変な外人」のひとりで、TVなどにも頻繁に登場し、観光立国シンポジウムのパネリストもつとめ、今では日本の観光産業界の有名人の一人である。しかし、そのフィンドレーさんの縁でやってきたオーストラリアの企業家たちは本物の企業家で、自分たちの目で確かめた上で、日本の観光業に新しい未来を描き、積極的に投資しようとしている。その一人のコリン・ハックワースさんは、日本の企業が10年前に160億円をかけて開発したニセコ花園スキー場をわずか2億4000万円で手に入れたという。ハックワースさんは、日本ハーモニーリゾート株式会社を設立し、今後倶知安町の100年分の建設予算に相当する500億円を投資して、日本人やオーストラリア人はもとより、アジア諸国人から欧米人までを対象とする世界有数の国際リゾートにしたいと語っている。

また、サイモン・ロビンソンさん夫妻はオーストラリアで経営していたレストランが山火事で焼けてしまったのを機会に日本に進出してきた。「北海道トラックス」なるリゾート開発会社を設立し、ニセコに分譲リゾート・マンション、いわゆるコンドミニアム一棟を建設し、すでに完売したという。分譲したコンドミニアムのユニットは、持主が使用しない期間（おそらく11ヶ月以上になる）は、サイモンさんの会社が委託を受けて貸し別荘として商品化する仕組みである。欧米では当り前のこの手法がこれまで日本ではほとんど試みられていないが、なるほどここから始めれば日本にも欧米型の長期滞在型リゾートの誕生につながるかもしれないと感心した。

日本には週単位で販売して隙間なくユニットを埋めていくことによる安価なリゾート滞在

型商品は皆無であり、どこがどのように先鞭をつけるのかが問題と考えていた。サイモンさんが描いて見せるニセコ・リゾートの将来像は、まことにわが意を得たといいたいものだが、日本人企業家の想像を超えるものである。だから「造りさえすれば売れる」というサイモンさんの計画が理解できず、バブルの後遺症におびえて融資を断る金融機関の姿勢もわからぬではないし、また、オーストラリア人がもたらしたこの好機を町の活性化につなげようと相談する倶知安町地元の有志がどうしていいかわからぬというのも驚くにはあたらない。ニセコのオーストラリア人たちがやろうとしていることは、日本人の常識からは出てこない発想であり、だからこそ革命なのである。

私はヨーロッパに10年滞在して、ビーチリゾートにもスキーリゾートにも毎年出かけるという幸運な経験をすることができた。また、雪の降らない英国から、土曜日ごとにスキー客を満載してジュネーヴ空港に次々に飛来するチャーター機を目にしてきた。2004年ですでに年間7,000人ものオーストリア人スキーヤーがニセコやってきて平均10日間滞在するということは、すでに流れは出来ており、アジアの上流顧客や欧米人にも間違いなく受け入れられるであろうと信じる事が出来る。フィンドレーさんによれば、ローカル、つまり日本人スキーヤーとの交流も楽しみのひとつであるという。

冬の日本は絶対に「売り物」になる。事実、スキー場ならアジア太平洋地域では日本の独壇場である。スキーリゾートは多額の投資が必要な上シーズンが限定されるから、社会的インフラが充分整備され、生活水準が相当高くないと良いスキー場は育たない。その意味では、まだまだアジアでは日本が他国を引き離して先行している。むしろ、フィンドレーさんやハックワースさんが改めて教えてくれたのは、ニセコ（あるいは北海道）のスキー場が世界一豊富で良質のパウダースキーに覆われているということである。雨量の多い日本は当然ながら雪が多い。ヨーロッパ・アルプスがトップシーズンでさえ雪不足に悩むことが多いことを考えると、ハックワースさん達のマーケティングが効果を発揮して、北海道が雪に憧れる南国の観光客のみならず、欧米人をも含む外国人スキーヤーであふれ、日本人スキーヤーと交流する本格的国際リゾートになる日がくるのも夢ではないかもしれない。というよりも、この動きを積極的に支援することこそ、日本のインバウンド国際観光に新しい展開をもたらす近道といっていいたいだろう。

瀕死の北海道経済を観光が救えるか。「ガイアの夜明け」の問いかけは、日本人ではなく、オーストラリア人による新しい試みによって、俄然道が開け現実味を帯びてきたような気がする。まさに北国の観光革命にふさわしい経過を辿ってほしい。今始まった国際リゾートへの胎動が、「北国からの観光革命」というにふさわしい経過をたどってほしい。日本人は手本さえ示されれば、適応力は抜群であるというのが定評である。欧米型バカンスに無縁で、滞在型商品が生まれなかった国内観光にも、リゾート「ニセコ」誕生をきっかけに、

新しい道が開けることを切に期待したい。